

# 使用上の注意改訂のお知らせ

無機質製剤

日本薬局方

## 塩化カリウム 塩化カリウム「フソー」

この度、標記製品の使用上の注意を改訂しましたので、お知らせ申し上げます。

2023年10月



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号

### 1. 改訂内容 (自主改訂: \_\_\_\_\_部変更)

改訂後			改訂前		
<p>2. 禁忌 (次の患者には投与しないこと) 2.1~2.5 省略 2.6 エプレレノン (高血圧症) <u>、エサキセレノン</u>を投与中の患者 [10.1 参照]</p>			<p>2. 禁忌 (次の患者には投与しないこと) 2.1~2.5 省略 2.6 エプレレノン (高血圧症) を投与中の患者 [10.1 参照]</p>		
10. 相互作用			10. 相互作用		
10.1 併用禁忌 (併用しないこと)			10.1 併用禁忌 (併用しないこと)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エプレレノン セララ (高血圧症) <u>エサキセレノン</u> <u>ミネプロ</u> [2.6 参照]	高カリウム血症があらわれることがある。	<u>これらの薬剤</u> は血中のカリウムを上昇させる可能性があり、併用により高カリウム血症があらわれやすくなると考えられる。 危険因子：腎障害患者	エプレレノン セララ (高血圧症) [2.6 参照]	高カリウム血症があらわれることがある。	<u>エプレレノン</u> は血中のカリウムを上昇させる可能性があり、併用により高カリウム血症があらわれやすくなると考えられる。 危険因子：腎障害患者

改訂後			改訂前		
10.2 併用注意（併用に注意すること）			10.2 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エプレレノン (慢性心不全) <u>フィネレノン</u>	血清カリウム値が上昇する可能性があるがあるので、血清カリウム値を定期的に観察するなど十分に注意すること。	カリウム貯留作用が増強するおそれがある。	エプレレノン (慢性心不全)	血清カリウム値が上昇する可能性があるがあるので、血清カリウム値を定期的に観察するなど十分に注意すること。	カリウム貯留作用が増強するおそれがある。
抗アルドステロン剤  (省略) <u>トルバプタン</u>	高カリウム血症があらわれることがある。	これらの薬剤は血中のカリウムを上昇させる可能性があり、併用により高カリウム血症があらわれやすくなると考えられる。 危険因子：腎障害患者	抗アルドステロン剤  (省略)	高カリウム血症があらわれることがある。	これらの薬剤は血中のカリウムを上昇させる可能性があり、併用により高カリウム血症があらわれやすくなると考えられる。 危険因子：腎障害患者
(省略)			(省略)		
筋弛緩剤 <u>ロクロニウム</u> <u>ム</u> 等	筋弛緩剤の作用が減弱することがある。	カリウムイオンは骨格筋の収縮に関与している。	筋弛緩剤 <u>ベクロニウム</u> <u>ム</u> 等	筋弛緩剤の作用が減弱することがある。	カリウムイオンは骨格筋の収縮に関与している。

## 2. 改訂理由

相互作用相手薬との整合性を図るため、「禁忌」及び「相互作用（併用禁忌）」の項にエサキセレノン、「相互作用（併用注意）」の項にフィネレノン及びトルバプタンを追記しました。

また「相互作用（併用注意）」の項について、筋弛緩剤のベクロニウムは国内での販売を既に停止しているため削除し、ロクロニウムを追記しました。

## 3. 本情報は医薬品安全対策情報(D S U)No. 321 に掲載予定です。

☆添付文書情報は、「医薬品医療機器総合機構ホームページ(URL: <https://www.pmda.go.jp/>)」及び「弊社ホームページ(URL: <https://www.fuso-pharm.co.jp/>)」においてご確認いただけます。

スマートフォン等モバイル端末からは、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ」をダウンロードし、GS1 バーコードを読み取ることで最新の電子添文を閲覧できます。



【本件に関するお問い合わせ先】

扶桑薬品工業株式会社 安全管理統括部

TEL 06-6969-1131 FAX 06-6969-3139